

経営比較分析表（令和5年度決算）

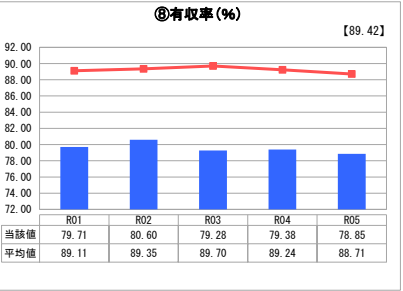
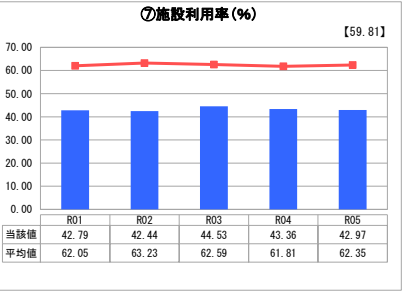
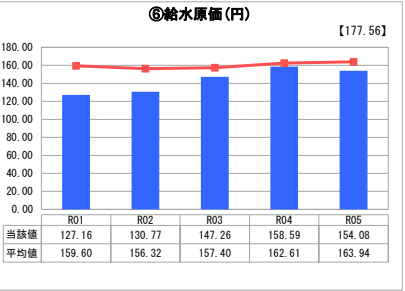
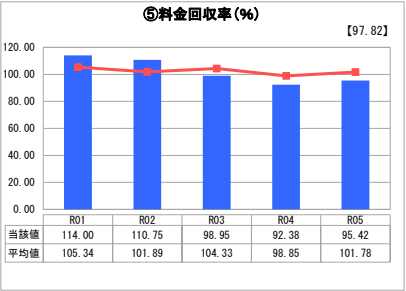
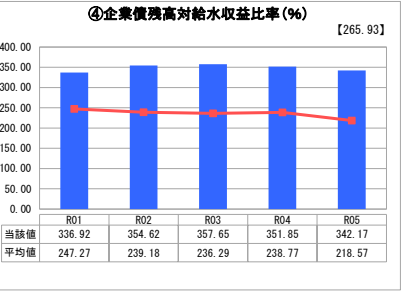
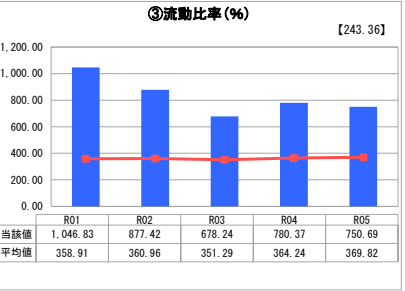
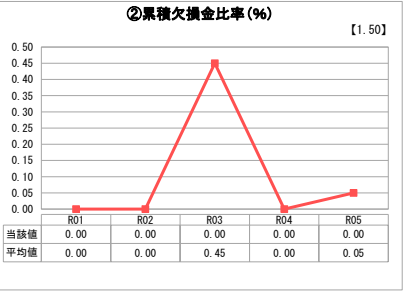
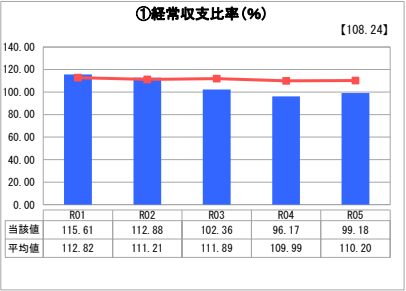
群馬県 桐生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	74.77	99.77	2,585	

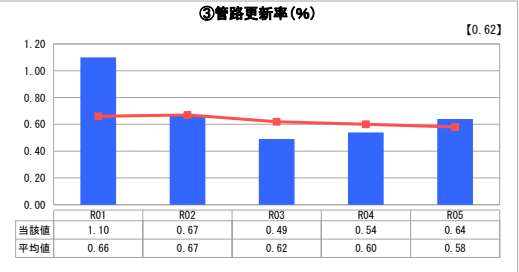
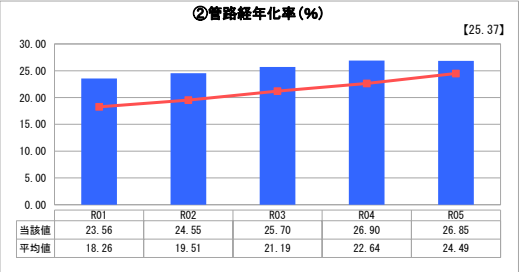
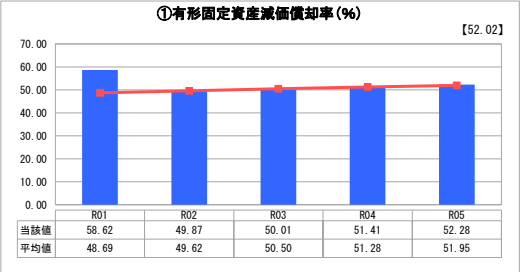
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
102,988	274.45	375.25
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
102,097	95.04	1,074.25

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
有収水量の減少に伴い、給水収益は減少したものの、燃料価格の高騰に伴う国の激変緩和対策事業の恩恵を受け動力費が減少し、僅かに改善したが、健全経営の水率とされる100%を下回る結果となった。引き続き経営の効率化を図るとともに適正な料金収入について検討する必要がある。

③ 流動比率
未払金の減少幅より、現金の減少幅が大きく、当該値は減少したものの、依然高い水準を推移しており、短期の債務に対しての支払い能力がある。

④ 企業債残高対給水収益比率
企業債の新規発行を抑制したことにより、償還が進み、僅かに数値が改善したが、平均値と比較しても高水準を示しているため、企業債残高減少の対策を講じ、借入と償還の均衡を図る必要がある。

⑤ 料金回収率
給水収益は減少したものの、燃料価格の高騰に伴う国の激変緩和対策事業の恩恵を受け動力費が減少し、僅かに改善したが、費用を給水収益で賄えていないため、更なる経営の健全化を目指すとともに適正な料金収入について検討する必要がある。

⑦ 施設利用率
平均値を下回るため、効率的な施設運用のために、引き続き「メンテナンス」や施設の統廃合を検討する。

⑧ 有収率
平均値を大幅に下回るのは地形的要素も要因の1つであると考えられるが、引き続き漏水の早期発見と要因判明に向けた調査を実施するとともに、衛星調査等の先進事例を研究し、数値改善に努める。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率や② 管路経年率が示すように、依然として耐用年数を経過した老朽管が多いことがわかる。また、③ 管路更新率については、前年より僅かに増加したものの、主要な基幹管路等大口径の更新工事に多額の工事費用を充てていることや更新設計を行う技師の人員不足が要因となり、更新管路延長が伸び悩んでいる。これらの状況から、更新費用の捻出や、更新率停滞の要因となっている人員不足を補う施策を進めていく必要がある。

全体総括

経常収支比率や料金回収率等の健全性を示す指標は僅かではあるが改善し、流動比率は良好な数値を示しているが、依然として当年度の収支を内部留保資金で賄っている状況である。

また、令和6年度以降も、労務単価の上昇による委託費用の増加や物価高騰による材料費の増加が懸念されるため、当分は内部留保資金に頼った事業運営が強いられる。

このような状況から、「桐生市水道事業経営戦略」に基づき、施設の「メンテナンス」等水運用の見直しや適正な水道料金の研究等、収支ギャップ解消のための施策を迅速に実施し、持続可能な事業運営を目指していきたい。